

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年1月27日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 3790500031 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人みとし会 | | |
| 事業所名 | 楽陽荘グループホームちーず | | |
| 所在地 | 香川県観音寺市柞田町甲1936番地 (電話)0875-25-3155 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人香川県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 香川県高松市番町一丁目10番35号 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年11月25日 | 評価決定日 | 平成22年1月27日 |

【情報提供票より】(21年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|-------------------------------|
| 開設年月日 | 昭和(平成) 19年 12月 1日 |
| ユニット数 | 2 ユニット 利用定員数計 18人 |
| 職員数 | 18人 常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算 16.8 |

(2) 建物概要

| | |
|------|------------------------------|
| 建物構造 | 鉄骨造り鋼板板ぶき 造り 1 階建ての 1 階部分 |
|------|------------------------------|

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|-----------|----------------|------------|
| 家賃(平均月額) | 45,000 円 | その他の経費(月額) | 15,000円+実費 |
| 敷金 | 有(円) (無) | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) (無) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | 1,000 円 | |

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

| | | | | | |
|-------|----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 18名 | 男性 | 4名 | 女性 | 14名 |
| 要介護1 | 8名 | 要介護2 | 4名 | | |
| 要介護3 | 3名 | 要介護4 | 2名 | | |
| 要介護5 | 1名 | 要支援2 | | | |
| 年齢 | 平均 84.8歳 | 最低 | 77歳 | 最高 | 91歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------|
| 協力医療機関名 | クニタククリニック |
|---------|-----------|

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ケアプラン委員会、食べもの委員会、身体拘束ゼロ推進委員会、介護事故防止委員会、感染症対策委員会、介護委員会の6つの委員会を設けている。そして、全職員が何らかの委員会に加わっている。また、委員会を中心に研修を行っている。
・利用者の誕生日には、どのようなお祝いを希望しているのか本人や家族と相談しながら企画してお祝いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

ホーム開設を地域から望まれた「ちーず」では、様々な地域行事への参加や地域住民との交流、ボランティアの受け入れ等が図れていることがうかがえる。ホーム内に6つの委員会を設け、全職員が何らかの委員会に所属することで、全職員参加の意識が高まるよう職員育成の面で配慮が見られると共に、委員会活動で検討された事項を研修会や業務の改善に繋げ、ケアの実践に取り組んでいる。また、運営推進会議をはじめ相談・苦情、事故・ヒヤリハット報告書等の書面が整理されており、改善に向けて検討した経過が分かりやすく記載されている。更に、管理者と職員が現場で常に意見交換することができ、利用者の意向を常に聞きながら対応することを心がけていることもうかがえた。職員の個性を生かし、全員参加の姿勢を大切に考え、日々のケアに取り組んでいる姿が印象的なホームであり、今後更なる活躍を期待したい。

| V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します | | | | | | | |
|--|--|-----------------------|----------------|----|---|-----------------------|----------------|
| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 利用者の2/3くらい | | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 利用者の1/3くらい | | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない | | | | 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度ある | | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまにある | | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない | | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | | | | |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 基本理念に基づいたサービスを提供している。 ・いつも笑顔で仲よく生活しています。 ・お一人おひとりの自立をお手伝いしています。 | 理念を分かりやすい言葉で表現し、「いつも笑顔」の考えを重視している。朝礼等で声をかけ合い理念の共有に取り組んでおり、また、理念の実現に向けて年間目標を掲げ、その振り返りを職員全員で行い日々の実践に生かすよう取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入して、回覧板などで地域の行事等を知ることが出来ている。お薬師堂の夏祭りに参拝して地域の人たちとの交流ができた。秋の大祭には太鼓台や獅子舞の訪問があり、地域の人達と交流が出来た。 | 自治会に所属し、地域行事等に参加しながらの交流が図れており、入居者の友人(地域の方)が訪ねてこられたことをきっかけとし、徐々に、ホームでお茶会をしたり、自宅で作った野菜や果物を持参してくれる等のお付き合いが始まっている。また、ギター演奏やハンドマッサージ、日舞等のボランティア受け入れも行われている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方から、介護予防や認知症の理解について、接し方の方法について相談を受けている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2カ月に1回開催している。会議では、利用者の状況、行事・外出支援・クラブ活動などサービス提供の状況を報告している。そして、そこで出た意見を参考にサービスの向上に努めている。 | 運営推進会議を2カ月に1回開催し、事業所の取り組みについての報告や地域の方との意見交換を行っている。議事録を会話形式でまとめている為、どのような話し合いが行われたか、非常に分かり易く整備されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 月に1度は市の担当者にケアサービスの取り組み状況を報告・相談して指導を受けている。 | 毎月1回、市への報告を行うと共に、更新手続き等で訪問した際は、市担当者への現状報告や相談を直接行うようにしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 禁止の対象となる具体的な⑩の行為を施設内研修などを通して全職員に周知している。そして、目標を決めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束ゼロ推進委員会を設置し、研修等を通じて拘束につながる行為や言葉について確認し、拘束を防止するよう取り組んでいる。また、玄関の鍵は昼間は施錠せず、夜間は戸締りの施錠は行うとの考えがある。 | |

楽陽荘グループホームちーず(売丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 『身体拘束ゼロ推進委員会』を中心に、虐待を防ぐためにお互いに気を付け合っている。また、気付かないうちに虐待している恐れがあるので【虐待の事例集】などを参考に、全職員が虐待について学んでいる。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 該当者がいないので、学ぶ機会を持っていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者がホームを利用することについて、利用者や家族が抱えている様々な不安な気持ちを和らげるような説明を契約時に行っている。また、解約に至る場合は家族に十分な説明をして理解・納得してもらえるように気配りしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情受付箱を設置して、ご家族の声を聞くようにしている。出された意見や苦情は全職員が共有して改善を行い、利用者本意の運営を心掛けている。また、法人の他の事業所との苦情解決検討会議を開催して早期解決に向けている。 | 事業所独自で作成した「ご家族様の声」の用紙を活用し、利用者、家族からの意見や相談を受ける体制がある。相談等の内容は、報告書にまとめられ、職員間の話し合いや苦情解決検討会議で検討され、解決する体制がある。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 委員会を設けて、全職員が何らかの委員会に加わり、月に1回会議を開いて決まったことを運営に反映させている。また、毎月スタッフ会議を開いて、委員会の報告を行ったりその他の意見・提案を聞いている。 | 管理者が常に介護現場にいるため、職員の声を把握しやすい現状にある。また、毎月第2火曜日19:00～職員全員参加のスタッフ会議を開催し、各委員会(全職員が所属)からの意見や提案を運営に活かすよう取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 介護福祉士や介護支援専門員の受験資格のある職員には、受験するように働きかけている。施設内研修を行うなどの環境も整えている。また、資格取得者には資格手当を支給するなど努力に応えている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内研修は、各委員会が中心となって年間計画を立て職員全員が研修を受けている。施設外研修は、職員の力量を考慮しながら参加を進めている。 | | |

楽陽荘グループホームちーず(壹丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 日本認知症グループホーム協会に入会して機関誌などで全国の動きについて、学んでいる。また、地域での勉強会に参加して質の向上への取り組みを行っている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前面接などに、本人の話を聴きながら、本人が今困っていること、不安に思っている内容、私たちにどんなことを求めているか等を知った上で、どのような支援をすればよいのかを職員間で話し合っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所申し込み時に、今、どんなことに困っているか、どんなことを要望しているか等を傾聴している。そして、ご家族のこれまでの苦労話を聴いて家族の気持ちを理解出来るように努めている。その内容を、暫定的介護計画に反映している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所の相談を受けた時に、グループホームへ入所できる要件を知らせている。もし、グループホームに該当されない方の場合は、入所できる施設や利用できる在宅サービスの内容を知らせて対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 調理・洗濯・掃除などの家事を利用者と一緒に行いながら教えてもらうことも多く、感謝や労いの言葉を掛けながら共に過ごしている。布巾を縫ったり、ボタンつけやほころびを縫ってもらうことで満足感を味わってもらっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 個々の利用者と家族との関係を理解して、それぞれの思いを大切にしながら支援している。家族会を結成して家族同士のつながりが築けてきた。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の友達が面会に来られた時は、お話する場所を本人と一緒に選んで、今後も訪問してもらえるように場の雰囲気作りに気を配っている。 | 利用者の友人、知人の面会時は、今後も訪問しやすいような雰囲気作り、場所の設定やお茶の用意等に配慮し対応している。 | 本人がこれまで大切にされてきた付き合いや繋がりを利用者個々に把握するように努め、希望する関係の継続ができる限り続けられるような取り組みを期待したい。 |

楽陽荘グループホームちーず(売丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の気持ちを考慮して、気の合う利用者と話ができるように座る席などを配慮している。一人で過ごす事を望まれている時は、職員と一緒に過ごして利用者が孤立しないように支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | どの利用者も地域に住まわれている方なので、契約が終了しても家族と会った時は利用者の現在の様子を伺っている。また、入院による退所の場合、機会を見つけて入院先の病院を訪問して今後の相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 介護計画作成時に、本人や家族の意向を十分に聞いて介護計画に盛り込んでいる。アセスメントの際にセンター方式の一部を活用して、自分の気持ちを充分表現できない利用者の思いを勘案している。 | センター方式の一部を活用し、利用者の思いの把握に努めている。まず、担当職員が記入し、次にユニット内の職員と話し合い、それから事業所内のカンファレンスで話し合う体制が整えられており、職員全体で思いや意向の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 作業や活動と一緒にいながら自然に話されている内容に耳を傾けて、生活歴やこれまでの暮らし方を把握して介護サービス計画書を作成している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 心身の状態を考慮すると共に本人の趣味や特技、興味を持たれているものを理解して、その人らしく、楽な毎日を過ごしていただけるように支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケース担当職員・計画作成者が中心となって、本人や家族の思い、意向を基に介護計画書(案)を作成している。カンファレンス時には本人と家族にも参加してもらい私たち関係者を交えて計画書を作成している。 | 日々行うケアの内容を「介護サービス計画検証表」に表記し、毎日、確認のためのチェックを行っている。担当職員と計画作成担当者がモニタリングを行い、その後カンファレンスにて状態把握やケアの検討を行い計画書作成に反映している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護計画書のサービス内容を実行した内容や、毎日一緒に過ごしながらか付いた点、利用者が工夫されている点などを個別記録に記入している。また、その内容を職員間で共有しながら次回の介護計画に活かしている。 | | |

楽陽荘グループホームちーず(売丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の要望に応じて、狭い畑だが季節の野菜と一緒に作り収穫後、食材として利用している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 月に1回メイクアップや体操のボランティア、夏休みに地域の中学生の体験学習を受け入れていることが、利用者の毎日の暮らしに潤いをもたらしている。また、市の図書館へ同行して図書の借り入れをして資源の活用が出来ている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人及び家族が希望されている病院の医師がかかりつけ医となっている。受診・通院については、利用契約時にその旨を説明して同意を得ている。本人と家族の希望で歯科医の訪問診療が行われている。 | 本人、家族と相談し、希望するかかりつけ医からの医療が受けられる体制がある。また、協力医療機関からの往診や訪問歯科診療も受けることができ、日々の健康管理の支援体制が整えられている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者との関わりの中かで得た心身の気付きなどを協力医療機関の看護師に報告して相談し、利用者の日常の健康管理や必要時、受診などにつなげている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用契約時に説明を行って、利用者の入院時に本人が安心して入院生活を送れるように、本人の介護に関する必要な情報を医療機関へ提供することについての同意書を作成している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用契約時に説明を行い、本人が重度化した場合の介護・治療の場所をどこにするかの意向を確認して同意書を作成しているが、重度化したり終末期を迎えた時には、その都度意向を確認してその人らしく暮らせるために家族、かかりつけ医、職員間で治療の方針を共有している。 | 入居時から、介護が重度化した際の本人、家族の意向を書面にて確認する体制が整っている。事業所としては、「グループホームでは、できる限り元気なうち、楽しく共同生活してほしい」との考えがある。体調が不安定な方の家族へは、説明を頻回に行うと共に、意向を十分に確認し対応するようにしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 介護事故防止委員会を中心に、利用者の急変時や転倒転落事故時の対応方法についてのマニュアルを作成して研修を行っている。 | | |

楽陽荘グループホームちーず(売丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回、火災や地震時を想定して全職員が参加し、避難訓練を行っている。防火管理者講習会に参加して地域との協力体制を築くことの重要性を学び、今後協力できるよう努めていきたい。 | 防火訓練を年2回(昼間想定と夜間想定)実施している。また、運営推進会議にて、地域の方と災害時の対応について話し合いを行う他、隣接の特養が市と災害時の協定を結んでおり、連携した対応が可能である。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーを損ねるような言葉や態度を目標に取り上げて気を付けている。そして、職員全員で利用者の人格を尊重した支援を心掛けている。 | 一人ひとりの人格を尊重し、利用者の意向を確認しながらの穏やかな対応がみられる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 何をする時にも具体的に声を掛けて意志の確認を行っている。また、言葉で表現することが難しい利用者の場合、顔の表情や頷き、手の動きなどで本人が決める場面を作っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の天候などを話し合いながら、一人ひとりが今日をどのように過ごしたいか自分の気持ちを話せる環境を作り、本人の希望に沿って個別に支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 地域の理容店の協力で定期的に訪問理容が出来ている。また、その日に着る洋服を利用者と一緒に選んだり口紅をさしてもらうことで、その人らしいおしゃれを楽しむことができるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理・配膳・下膳・食器洗いなど、一人ひとりの利用者の力に応じて無理のない範囲で一緒に行っている。 | 利用者のできる力に合わせて、食事の準備等を行ってもらっている。職員1名は利用者と一緒に食事をしている。利用者の状態に合わせた食事形態が準備されている。 | 職員、利用者が共に食事を楽しむことを視点に考え、できる限りの職員と一緒に、同じ御膳を味わうことで生まれる会話や雰囲気作りの工夫を期待したい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 特養の管理栄養士の作成した献立表を基に、利用者の意見を聞いて献立を作成している。食事・水分量が充分摂取出来にくい利用者の場合、表に記録をして必要な水分が確保できるように気を付けている。 | | |

楽陽荘グループホームちーず(売丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアの声を掛けて義歯洗浄を含めてその人に合った方法で清潔を保っている。本人が自分で出来にくい場合は職員が支援している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりのトイレへ行きたいというサインを見逃さず、トイレへ行くことを希望した時には「ちょっと待って」と言わないで気持ちよく排泄出来るように支援している。もし間に合わなかった時も、本人の心が傷付かないように支援している。 | 体調の不安定な方については、排尿の回数等が記載され把握されているが、トイレ介助については定時及び希望された時が多く、個別の排泄パターンを把握するには至っていない。 | トイレに行きたいというサインを重視しながら、今後は、排泄チェック表等を活用する等、個別の排泄パターンを把握することで、排泄の自立に向けての取り組みに期待したい。 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘対策として、繊維質が多く含まれている食材を使用したり水分を必要量摂取出来るように図っている。また、毎朝の体操や腹部マッサージを行って自然排便に取り組んでいる。排便チェック表で排便の状態を把握できている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 朝風呂、夜間入浴など本人の希望する時間帯、毎日でも入浴を楽しめるよう支援している。もし、利用者が入浴を拒む時は、時間をおいて声をかけたり職員が代わって誘いかけるなどして週に3回以上は入浴できている。 | 週3回の入浴を定期的回数とし、希望によって、毎日の入浴や夜間入浴等、個別の希望に対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は出来るだけ活動を促し生活リズムを整えるようにしている。また、寝つきにくい利用者の場合は、夜間入浴や足浴など、利用者本人が気持ちよく寝付ける方法を工夫している。もし、夜間の睡眠時間が短い場合日中に休んでもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の利用者が服薬している薬の名前・用法・用量・効能などを理解している。そして、誤薬が起きないような支援を行うと共に、日頃の様子を把握しておき、いつもと違う様子を早めに気付くように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者一人ひとりの得意分野を把握している。そして、本人のやる気を引き出せるような言葉を掛けて一緒に楽しみを持って活動出来るように支援を行っている。 | | |

楽陽荘グループホームちーず(売丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ホーム周辺を散歩したり、野菜の水遣りなどをして日に1度は外出できるように支援している。また、食材の買い物の同行や近くの広場まで散歩したり、月に1度は公用車でドライブがてら季節の花を見物に行き気分転換を図っている。 | 毎日一度は戸外の風にふれる機会を作るとの考えのもと、ホームの周辺の散歩や花壇の花の水遣り等を行っている。また、食材の買い物や、ドライブに出かけ気分転換が図れるよう取り組んでいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者の希望と持てる力を考慮しながら家族と充分相談して金銭を所持してもらっている。利用者が購入したい商品ができた時は家族と相談して家族に協力して同行してもらったり、職員が同行して買い物の支援をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の子機を取り付けており、家族や友人と電話で話が出来やすい環境を整えている。遠方の子供たちとは電話で話したり、手紙のやり取りをして近況を伝えやすいような支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアの飾り付けやテーブルの配置は利用者と相談しながら協力して行っている。また、テーブルや洗面所には季節の花を絶やさぬよう環境面の工夫をしている。清潔を保つと共に匂いに気を付け換気を行い、居心地のよさに工夫している。 | 共用空間は、畳コーナーとテーブルコーナーがあり、利用者の好みの場所でくつろげるよう工夫されている。畳コーナーにはコタツを置いたり、テーブルや洗面所等に季節の花を飾るなど、季節感が感じられるよう工夫している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下に備え付けられた椅子に独り座っている利用者を見かけたら、職員と一緒に座って話しの相手をしている。また、気の合う利用者同士がお互いの部屋を訪問して一緒にお茶などが飲めるような工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者がこれまで使用していた馴染みの家具などを持ってきて本人と家族で相談しながら配置できている。そして、本人の家のような居心地の良い空間になるような工夫をしている。 | 居室には、自宅で使い慣れた椅子やソファが置かれていたり、思い出の写真やお位牌等利用者の好みの物が持参されている。また、希望により冷蔵庫・テレビ等の持ち込みも自由にでき選択性の幅が感じられる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | その人にとって、『何が混乱を招くのか』など、状況に応じて環境整備を行っている。利用者と協力して作成した日めくりカレンダーは毎日の日課を理解するのに役立っている。 | | |

| V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します | | | | | | | |
|--|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|-------------------|-----|--|---|
| | | | 実践状況 |
| I.理念に基づく運営 | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 基本理念に基づいたサービスを提供している。 ・いつも笑顔で仲よく生活しています。 ・お一人おひとりの自立をお手伝いしています。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入して、回覧板などで地域の行事等を知ることが出来ている。お薬師堂の夏祭りに参拝して地域の人たちとの交流ができた。秋の大祭には太鼓台や獅子舞の訪問があり、地域の人達と交流が出来た。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方から、介護予防や認知症の理解について、接し方の方法について相談を受けている。 |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2カ月に1回開催している。会議では、利用者の状況、行事・外出支援・クラブ活動などサービス提供の状況を報告している。そして、そこで出た意見を参考にサービスの向上に努めている。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 月に1度は市の担当者にケアサービスの取り組み状況を報告・相談して指導を受けている。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 禁止の対象となる具体的な⑩の行為を施設内研修などを通して全職員に周知している。そして、目標を決めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 『身体拘束ゼロ推進委員会』を中心に、虐待を防ぐためにお互いに気を付け合っている。また、気付かないうちに虐待している恐れがあるので【虐待の事例集】などを参考に、全職員が虐待について学んでいる。 |

楽陽荘グループホームちーず(武丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----|-----|--|---|
| | | | 実践状況 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 該当者がいないので、学ぶ機会を持っていない。 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者がホームを利用することについて、利用者や家族が抱えている様々な不安な気持ちを和らげるような説明を契約時に行っている。また、解約に至る場合は家族に十分な説明をして理解・納得してもらえるように気配りしている。 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情受付箱を設置して、ご家族の声を聞くようにしている。出された意見や苦情は全職員が共有して改善を行い、利用者本意の運営を心掛けている。また、法人の他の事業所との苦情解決検討会議を開催して早期解決に向けている。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 委員会を設けて、全職員が何らかの委員会に加わり、月に1回会議を開いて決まったことを運営に反映させている。また、毎月スタッフ会議を開いて、委員会の報告を行ったりその他の意見・提案を聞いている。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 介護福祉士や介護支援専門員の受験資格のある職員には、受験するように働きかけている。施設内研修を行うなどの環境も整えている。また、資格取得者には資格手当を支給するなど努力に応えている。 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内研修は、各委員会が中心となって年間計画を立て職員全員が研修を受けている。施設外研修は、職員の力量を考慮しながら参加を進めている。 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 日本認知症グループホーム協会に入会して機関誌などで全国の動きについて、学んでいる。また、地域での勉強会に参加して質の向上への取り組みを行っている。 |

楽陽荘グループホームちーず(武丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----------------------------|-----|--|--|
| | | | 実践状況 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前面接などに、本人の話を聴きながら、本人が今困っていること、不安に思っている内容、私たちにどんなことを求めているか等を知った上で、どのような支援をすればよいのかを職員間で話し合っている。 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所申し込み時に、今、どんなことに困っているか、どんなことを要望しているか等を傾聴している。そして、ご家族のこれまでの苦労話を聴いて家族の気持ちを理解出来るように努めている。その内容を、暫定的介護計画に反映している。 |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所の相談を受けた時に、グループホームへ入所できる要件を知らせている。もし、グループホームに該当されない方の場合は、入所できる施設や利用できる在宅サービスの内容を知らせて対応している。 |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 調理・洗濯・掃除などの家事を利用者と一緒に行いながら教えてもらうことも多く、感謝や労いの言葉を掛けながら共に過ごしている。布巾を縫ったり、ボタンつけやほころびを縫ってもらうことで満足感を味わってもらっている。 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 個々の利用者と家族との関係を理解して、それぞれの思いを大切にしながら支援している。家族会を結成して家族同士のつながりが築けてきた。 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の友達が面会に来られた時は、お話する場所を本人と一緒に選んで、今後も訪問してもらえるように場の雰囲気作りに気を配っている。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の気持ちを考慮して、気の合う利用者と話ができるように座る席などを配慮している。一人で過ごす事を望まれている時は、職員と一緒に過ごして利用者が孤立しないように支援している。 |

楽陽荘グループホームちーず(貳丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|------------------------------------|------|--|--|
| | | | 実践状況 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | どの利用者も地域に住まわれている方なので、契約が終了しても家族と会った時は利用者の現在の様子を伺っている。また、入院による退所の場合、機会を見つけて入院先の病院を訪問して今後の相談や支援に努めている。 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 介護計画作成時に、本人や家族の意向を十分に聞いて介護計画に盛り込んでいる。アセスメントの際にセンター方式の一部を活用して、自分の気持ちを充分表現できない利用者の思いを勘案している。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 作業や活動と一緒にいながら自然に話されている内容に耳を傾けて、生活歴やこれまでの暮らし方を把握して介護サービス計画書を作成している。 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 心身の状態を考慮すると共に本人の趣味や特技、興味を持たれているものを理解して、その人らしく、楽な毎日を過ごしていただけるように支援している。 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケース担当職員・計画作成者が中心となって、本人や家族の思い、意向を基に介護計画書(案)を作成している。カンファレンス時には本人と家族にも参加してもらい私たち関係者を交えて計画書を作成している。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護計画書のサービス内容を実行した内容や、毎日一緒に過ごしながら気付いた点、利用者が工夫されている点などを個別記録に記入している。また、その内容を職員間で共有しながら次回の介護計画に活かしている。 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の要望に応じて、狭い畑だが季節の野菜と一緒に作り収穫後、食材として利用している。 |

楽陽荘グループホームちーず(武丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----|------|---|--|
| | | | 実践状況 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 月に1回メイクアップや体操のボランティア、夏休みに地域の中学生の体験学習を受け入れていることが、利用者の毎日の暮らしに潤いをもたらしている。また、市の図書館へ同行して図書の借り入れをして資源の活用が出来ている。 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人及び家族が希望されている病院の医師がかかりつけ医となっている。受診・通院については、利用契約時にその旨を説明して同意を得ている。本人と家族の希望で歯科医の訪問診療が行われている。 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者との関わりの中かで得た心身の気付きなどを協力医療機関の看護師に報告して相談し、利用者の日常の健康管理や必要時、受診などにつなげている。 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用契約時に説明を行って、利用者の入院時に本人が安心して入院生活を送れるように、本人の介護に関する必要な情報を医療機関へ提供することについての同意書を作成している。 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用契約時に説明を行い、本人が重度化した場合の介護・治療の場所をどこにするかの意向を確認して同意書を作成しているが、重度化したり終末期を迎えた時には、その都度意向を確認してその人らしく暮らせるために家族、かかりつけ医、職員間で治療の方針を共有している。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 介護事故防止委員会を中心に、利用者の急変時や転倒転落事故時の対応方法についてのマニュアルを作成して研修を行っている。 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回、火災や地震時を想定して全職員が参加して避難訓練を行っている。防火管理者講習会に参加して地域との協力体制を築くことの重要性を学び、今後協力できるよう努めていきたい。 |

楽陽荘グループホームちーず(弐丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----------------------------------|------|--|--|
| | | | 実践状況 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーを損ねるような言葉や態度を目標に取り上げて気を付けている。そして、職員全員で利用者の人格を尊重した支援を心掛けている。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 何をする時にも具体的に声を掛けて意志の確認を行っている。また、言葉で表現することが難しい利用者の場合、顔の表情や頷き、手の動きなどで本人が決める場面を作っている。 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の天候などを話し合いながら、一人ひとりが今日をどのように過ごしたいか自分の気持ちを話せる環境を作り、本人の希望に沿って個別に支援している。 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 地域の理容店の協力で定期的に訪問理容が出来ている。また、その日に着る洋服を利用者と一緒に選んだり口紅をさしてもらうことで、その人らしいおしゃれを楽しむことができるよう支援している。 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理・配膳・下膳・食器洗いなど、一人ひとりの利用者の力に応じて無理のない範囲で行っている。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 特養の管理栄養士の作成した献立表を基に、利用者の意見を聞いて献立を作成している。食事・水分量が充分摂取出来にくい利用者の場合、表に記録をして必要な水分が確保できるように気を付けている。 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアの声を掛けて義歯洗浄を含めてその人に合った方法で清潔を保っている。本人が自分で出来にくい場合は職員が支援している。 |

楽陽荘グループホームちーず(弐丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----|------|---|--|
| | | | 実践状況 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりのトイレへ行きたいというサインを見逃さず、トイレへ行くことを希望した時には「ちょっと待って」と言わないで気持ちよく排泄出来るように支援している。もし間に合わなかった時も、本人の心が傷付かないように支援している。 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘対策として、繊維質が多く含まれている食材を使用したり水分を必要量摂取出来るように図っている。また、毎朝の体操や腹部マッサージを行って自然排便に取り組んでいる。排便チェック表で排便の状態を把握できている。 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 朝風呂、夜間入浴など本人の希望する時間帯、毎日でも入浴を楽しめるよう支援している。もし、利用者が入浴を拒む時は、時間をおいて声をかけたり職員が代わって誘いかけるなどして週に3回以上は入浴できている。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は出来るだけ活動を促し生活リズムを整えるようにしている。また、寝つきにくい利用者の場合は、夜間入浴や足浴など、利用者本人が気持ちよく寝付ける方法を工夫している。もし、夜間の睡眠時間が短い場合日中に休んでもらっている。 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の利用者が服薬している薬の名前・用法・用量・効能などを理解している。そして、誤薬が起きないように支援を行うと共に、日頃の様子を把握しておき、いつもと違う様子に早めに気付くように努めている。 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者一人ひとりの得意分野を把握している。そして、本人のやる気を引き出せるような言葉を掛けて一緒に楽しみを持って活動出来るように支援を行っている。 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ホーム周辺を散歩したり、野菜の水遣りなどをして日に1度は外出できるように支援している。また、食材の買い物の同行や近くの広場まで散歩したり、月に1度は公用車でドライブがてら季節の花を見物に行き気分転換を図っている。 |

楽陽荘グループホームちーず(弐丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----|------|--|---|
| | | | 実践状況 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者の希望と持てる力を考慮しながら家族と充分相談して金銭を所持してもらっている。利用者が購入したい商品ができた時は家族と相談して家族に協力して同行してもらったり、職員が同行して買い物の支援をしている。 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の子機を取り付けており、家族や友人と電話で話が出来るやすい環境を整えている。遠方の子供たちとは電話で話したり、手紙のやり取りをして近況を伝えやすいような支援をしている。 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアーの飾り付けやテーブルの配置は利用者と相談しながら協力して行っている。また、テーブルや洗面所には季節の花を絶やさないう環境面の工夫をしている。清潔を保つと共に匂いに気を付け換気を行い、居心地のよさに工夫している。 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下に備え付けられた椅子に独り座っている利用者を見かけたら、職員と一緒に座って話しの相手をしている。また、気の合う利用者同士がお互いの部屋を訪問して一緒にお茶などが飲めるような工夫をしている。 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者がこれまで使用していた馴染みの家具などを持ってきて本人と家族で相談しながら配置できている。そして、本人の家のような居心地の良い空間になるような工夫をしている。 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | その人にとって、『何が混乱を招くのか』など、状況に応じて環境整備を行っている。利用者と協力して作成した日めくりカレンダーは毎日の日課を理解するのに役立っている。 |